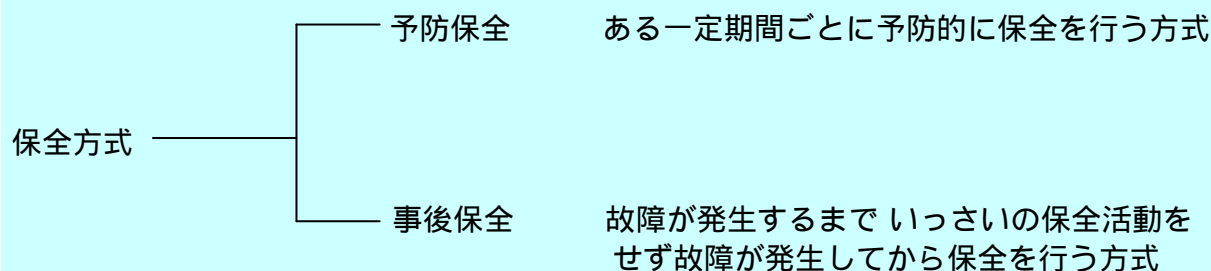


MOTOMAN

予防保全のお勧め

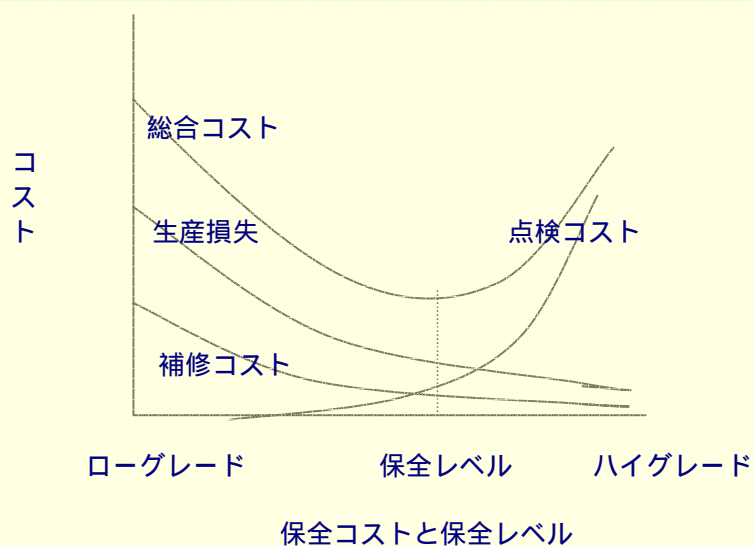
1、保全方式の分類



2、コストと保全レベル

保全のレベルを高くすると点検コストは高くなりますが、生産損失、補修コストは低くなります。反対に保全のレベルを低くすれば点検コストは安くなりますが、生産損失、補修コストが高くなります。

点検コスト・補修コスト・生産損失を合算したものを総合コストとしたときこれらのコストと保全レベルの関係を下図に示します。



補修コスト

劣化部品を補修、取り替えるためのコストで部品費と取替え費からなる予防保全コストと事後保全コストがあり、事後保全コストは予防保全コストに対して2次被害等により高くなります。

点検コスト

点検のための機器と人件費からなります。

生産損失

ロボットが故障し休止することによる生産減。これはその時期時期の情勢、すなわち生産量や休止時間により大幅に異なります。

この様に、ある保全レベルで総合コストが最も低くなるMIN点が存在します。

当社は全国レベルで保全・修理を行っており、これまで蓄積されたデータを元に分析しますと、総合コストのMIN点は1年ごとの計画的な実施がもっとも最良であると考えます。

MOTOMANの予防保全をぜひ、ご検討ください。



安川エンジニアリング 株式会社